



丸木夫妻による「平和の図」が刻まれている

我が街の 記念碑

29

原爆犠牲者追悼碑

葛西駅
徒歩5分



【江戸川・書記・中村安彦 通信員】1981年に完成した、広島・長崎の原爆犠牲者の追悼碑です。被爆地以外で区立公園の中に設置されているのは全国でも珍しく、江戸川区民全体の平和を願うシンボルとなっています。

これは、「被爆者も家族も高齢化し広島・長崎への慰霊参拝が年々困難になる。何とか区内で慰霊ができないだろうか」という声をもとに、江戸川区原爆被害者の会「親江会」が中心となって1980年に「江戸川区に原爆犠牲者追悼碑を建立する会」が結成され、募金活動などを始めて建立に至ったものです。追悼碑には「原爆の図」作者の丸木位里・俊夫妻が描いた絵「平和の図」が刻まれている。碑に手を合

被爆の恐ろしさ語り継ぐ 区民の平和の象徴

碑に手を合わせると広島・長崎を向く方向に建っています。

建立後は江戸川区に寄贈され、1981年7月に追悼碑除幕式と第1回「江戸川区原

爆犠牲者追悼式」が挙行され追悼式は現在も毎年続けられています。追悼式には、被爆者・若い世代の言葉「(地元)の高校生や中学生による」

「一瞬の閃光に焼かれ爆風にはねられた瓦川底に眠ること三十余年平和を願う子供達の手ですくえあげられた」として刻まれています。追悼碑とともに、江戸川区の核兵器廃絶への願いの象徴にもなっています。

また、原爆瓦の記念碑は、1982年6月、広島・長崎両市から被爆した瓦の10数枚の寄贈を受けて建立された記念碑で、同場所の「原爆犠牲者追悼碑」に隣接するように配置されています。碑には、被爆した瓦の辿った経過が

「一瞬の閃光に焼かれ爆風にはねられた瓦川底に眠ること三十余年平和を願う子供達の手ですくえあげられた」として刻まれています。追悼碑とともに、江戸川区の核兵器廃絶への願いの象徴にもなっています。

破門

鳥飼達夫は高校2年の時、当時フジテレビの深夜放送

でも大人気だった笑福亭鶴光に弟子入りを直訴。通い弟子となって高校卒業後は鶴光の内弟子として笑福亭笑光を名乗るようになる。しかし若気の至りか、落語を学ばず遊び惚けていた

ため破門に。その後バイトをしながら全国を放浪中に独自の替え歌を作り始めたが、これが偶然アミューズの大会長の耳にとまり、元祖替え歌芸人・嘉門達夫の誕生につながった。

忘れえぬこと

人生の岐路で導かれた 友人の母君に感謝

鉄骨 坂爪幸男

50年ほど前、八王子の片田舎に住んでいた私は、縁あって中野区にある明大野中学に進学。国鉄(当時)で中央線西八王子駅から東中野駅まで通学することになりました。

入学して間もなく、八王子駅から通う原君という子を知

り合いました。私が西八王子駅から毎朝6時半の電車に乗り、彼が待っている八王子駅へ。彼は彼で私があるのを八王子駅で待っている。そのような好循環が生まれ、いつしか二人は中学、高校とも6年間、皆勤賞までいただきました。彼は色々なことにおいて助け合い、励まし合った親友であり、家族ぐるみで付き合い合う仲でもありました。

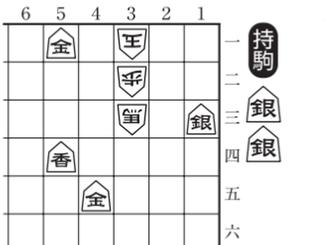
特に彼の母君には、我が子のようにいろいろなことを教えていただき、深く感謝しています。

原先生に色々ご指導いただいたことは、感謝しても感謝しきれません。今までの自分の人生を振り返ると幸せであり、残りの人生、仕事、土建と趣味を、もう少し楽しみたいと思います。(八王子)



うだが、これですらテレワークの可能性が広がった。「テレワークが始まった。ハンコを押すために出社した」。労務ソフトを開発するSmartHR社が出した電車広告のキャッチコピーだ。緊急事態宣言後、通勤も命がけとの思いをした人たちに、ハンコを押す必要はない。これは朗報なのかもしれない。

詰将棋



チヨット一服(1015)

規制改革推進会議の提言を受けて、政府は民間企業や官民の取引の契約書に押印は必ずしも必要ないとの見解を示した。押印でなくてもメールの履歴などで契約を証明できると周知するそうだ。新型コロナ感染症の拡大を受け、電子印鑑の需要も増えている。

コロナの時代の僕ら

著=パオロ・ジョルダノ / 訳=飯田亮介

環境破壊が生んだ難民の1部。僕らのほうが彼らを巣から引っ張り出した。今回の流行が何とか終息したとしても、「コロナ時代」は続くということだ。

そして著者は述べる。「この大きな苦しみが無意味に過ぎるのを許してはいけない。元に戻ってほしくないことについて考えてみよう」。

日本社会でも、コロナは多くの社会矛盾をさらけ出した。大企業の利益が優先され、格差は拡大、保健所や医療・介護など社会保障が削減されてきた。その結果、コロナ襲来に対して保健所機能はパンク、病床数は逼迫、医療崩壊寸前となった。体力のない中小零細企業と労働者が危機に追い込まれている。このままではいけない。これからの社会のあるべき姿を考え、行動し、この時代を生かすために、一読をおすすめしたい。(早川書房・1300円 十税)

コロナの時代の僕ら

著=パオロ・ジョルダノ / 訳=飯田亮介

この大きな苦しみを無駄にするな

環境破壊が生んだ難民の1部。僕らのほうが彼らを巣から引っ張り出した。今回の流行が何とか終息したとしても、「コロナ時代」は続くということだ。

そして著者は述べる。「この大きな苦しみが無意味に過ぎるのを許してはいけない。元に戻ってほしくないことについて考えてみよう」。

日本社会でも、コロナは多くの社会矛盾をさらけ出した。大企業の利益が優先され、格差は拡大、保健所や医療・介護など社会保障が削減されてきた。その結果、コロナ襲来に対して保健所機能はパンク、病床数は逼迫、医療崩壊寸前となった。体力のない中小零細企業と労働者が危機に追い込まれている。このままではいけない。これからの社会のあるべき姿を考え、行動し、この時代を生かすために、一読をおすすめしたい。(早川書房・1300円 十税)

ほん

環境破壊が生んだ難民の1部。僕らのほうが彼らを巣から引っ張り出した。今回の流行が何とか終息したとしても、「コロナ時代」は続くということだ。

そして著者は述べる。「この大きな苦しみが無意味に過ぎるのを許してはいけない。元に戻ってほしくないことについて考えてみよう」。

日本社会でも、コロナは多くの社会矛盾をさらけ出した。大企業の利益が優先され、格差は拡大、保健所や医療・介護など社会保障が削減されてきた。その結果、コロナ襲来に対して保健所機能はパンク、病床数は逼迫、医療崩壊寸前となった。体力のない中小零細企業と労働者が危機に追い込まれている。このままではいけない。これからの社会のあるべき姿を考え、行動し、この時代を生かすために、一読をおすすめしたい。(早川書房・1300円 十税)